

「“妊娠できない道”を自ら選ぶことはできませんでした」

グズグズしていて助かった私の子宮

私はけっこう長期間、筋腫を抱えたまま何の治療もせずほったらかしにしていました。特に痛みがあまりなかったので、全摘しかできない手術はどうしても決められませんでした。そして何とかできないかとグズグズして広尾メディカルクリニックにめぐり合いました。私のどこかにあった『子供が欲しい』という気持ちが、この出会いを引き寄せてくれたのだと思います。

盲腸のような腹痛

結婚後1年ほど経った頃、下腹部に「チクチク」という違和感程度の痛みが起こりました。盲腸？と思い、近所の内科で検査しましたが、「内科的にはどこも悪くないので婦人科を調べてみては？」と、婦人科の個人病院を紹介されました。そこでの診断は筋腫。

当時私は26歳。筋腫などの婦人科系の病気を気にする年齢でもありませんし、正直言って筋腫に対してはまったく無知でした。若くて健康な自分がそんな病気にかかるなんて夢にも思っていないので、自分が病気だというショックは大きかったものの、「は？筋腫って何なの？」という状態。クリニックの医師から「お子さんが欲しいならウチより大きい病院の方がいい。設備が整っているから」という勧めもあり、国立病院を紹介されました。

その担当医は、妊娠・出産はなるべく自然に・・・という方針だったので、「子供が欲しいなら様子を見ましょう。なるべく早く妊娠してください。基礎体温をつけて2～3ヶ月おきにチェックしましょう」と指示され、特に筋腫に対する治療は施されませんでした。自分なりに筋腫の治療法を調べましたが、どんな本を読んでも似たり寄ったりで、具体的な治療法はいまひとつ決め手に欠け、結局知りたい事をキチンと知らないまま、「筋腫があっても子供ができないわけではない」「筋腫では死なないだろう」などと楽観視しながら、これと言った治療もせずただ基礎体温のチェックだけの病院通いはだんだん億劫になり、いつの間にか行かなくなってしまいました。

妊娠と間違われるほどの筋腫は体調だけでなく心まで・・・

私は、生理の出血はかなり多めでしたが痛みはあまり無かったので、筋腫があることを深刻に受け止めていなかったように思います。そうこうしている間に出血もだんだんとひどくなり、夜用ナプキンを使っても1時間くらいで服を汚してしまったり、トイレで大出血して貧血でフラフラになってしまったりしていました。

体調もおかしくなっていたのですが、疲れやすいのは30歳を過ぎたから、おなかがふっくらしてきたのは運動不足のせい、と思い込んでいたので、様々な不調が筋腫のせいだなんて考えてもいませんでした。

だいぶおなかがポッコリしてきた頃、シートベルト違反で警官に車を止められたことがありました。私が何も言っていないのに「妊娠してはるんですか？」とお巡りさんに言われるくらい大きいおなか。おなかのせいで似合う服も無くなり、ちょっと動くときすぐだるくなり、何よりも嫌だったのは、生理になって2～3日は自分のことが凄く情けなくて嫌いになってしまうことでした。体調の悪さは心の健康まで蝕んでいたように思います。

選べなかった選択肢

ある時、腹痛ではなかったのですが内科にかかったら、また最終的には婦人科に辿り着きました。私のポッコリしたおなかを見て婦人科の担当医は「あなたのことは気になってたんや。そろそろどうにかしたら？」と、“全摘”と明言されないものの、手術して取ってしまったら？という感じを仄めかされました。

体のしんどさは貧血のせいだと指摘され、「もし貧血で倒れて輸血でもされたら、他の病気になることもある！」と怖い事を言われましたが、自分に限ってそんな深刻な事態とは無関係だと考えていたのです。でもその頃はしんどさのせいで夕方には仮眠をする毎日で、「このまま放っとけないかも...」と思い始めていました。

そして夫と二人して婦人科の担当医に手術の説明を聞きに行きました。丁寧な説明で理屈は理解できても、結局は子宮

全摘の話。夫はとても子供を欲しがっていたので、今までどちらかと言うと避けて来た問題に直面し、手術を避けられないことにショックを受けていました。そして私も、子供を産めない体になることは心底ショックでした。

そして自らその道を選ぶことは到底できるものではなく、結局手術を受ける事はできず、また筋腫を抱えたまましばらく過ごしてしまいました。

運命を変えたパソコン導入

この頃、我が家にパソコンが入りインターネットができるようになりました。筋腫について何か新しい情報はないかと探していたら、広尾MCのホームページを見つけ、すぐ夫に相談しました。

私たちは兵庫在住、広尾MCは神奈川。「遠いなあ。近所に同じ治療やってる病院、あるんちゃう？」という夫。私は斎藤先生の著書入手して体験談を読み、「スゴイ！この体験談のような事が私にも起こればいいなあ」と強く感じ、子供ができた体験談と自分をオーバーラップさせたりしていました。夫も真剣に色々調べてくれましたが、やはりそれらでは私の子宮を残せる可能性はゼロ。ということは妊娠の可能性もゼロになるということ。それだけは絶対選びたくない選択肢でした。

98年5月。自分たちの目で確かめようと、意を決して広尾MCに診察に行く事にしました。怪しげな病院だったら二度と行かなければいいのだと自分を奮い立たせて。そこで斎藤先生は「子供が欲しいんでしょう？子宮を残したいんでしょう？何を迷っているの？」と静かに強くおっしゃいました。

当時は今のように数ヶ月も手術待ちという状態ではなく、週に2人ずつの手術でした。手術の予約もすぐ入れられるとのことだったので、「ヒマだから空いてるのかな？」とちょっと不安になりました。費用も全額自己負担ですし、どうしようか迷いが生じましたが、普通の手術と斎藤先生の手術を比べると、手術の辛さは同じでも後に楽しみがある手術の方がいい、痛くてもあとは治るだけ・元気になるだけの手術の方がいい、子宮を失ってガッカリするより妊娠の可能性が残の方が幸せに違いないと思い、手術を受ける決心をしました。

ひどすぎた貧血

手術日まであと1週間、佐々木病院に術前検査を受けに行った日のこと。あまりの貧血のひどさ（ヘモグロビン値6.2~6.3）に「こんな状態では手術できない。このまま入院して輸血を受けなさい。何かあったら困るからこのまま家に帰らずこっちにいなさい。手術日に迎えに来ます」と言い渡されてしまいました。今まで貧血をほったらかしていたツケが大事な場面でまわってしまったのです。一旦自宅に戻り、1日で色々片付けて翌日鶴見に戻りそのまま入院、3日ほど点滴を受けました。

手術中は気分が悪くなんだか震えもあり、時間が経つのがやたらろかった。術後は痛くて眠れず、とにかくしんどかったと思います。私のお腹からは2,050gの筋腫と5gの内膜ポリープが摘出され、術後の生理は驚くほど軽く、1年後には普通の子宮に戻っていました。あれほどしんどかった体のだるさもいつしか無くなり、健康な体と生活を取り戻せたのでした。

愛娘を授かって..

術後2年経った2000年の8月、妊娠していることが分かり、翌年3月、娘の愛梨が授かりました。一度は諦めかけていただけに、私も夫も喜びはひとしお。娘ということもあり夫の可愛がりようはたいへんなものです。

近所の総合病院で帝王切開での出産でした。帝王切開手術の出血が多く、術後の検査でヘモグロビンが6.いくつかに下がってしまったのですが、その時は普通の状態から急激に貧血になったので、歩くのさえ辛い状態になってしまいました。思えば広尾MCに初診に行った頃、同じような貧血状態で私は兵庫から神奈川までトコトコ出かけて行ったのですね。今考えるとゾッとします。

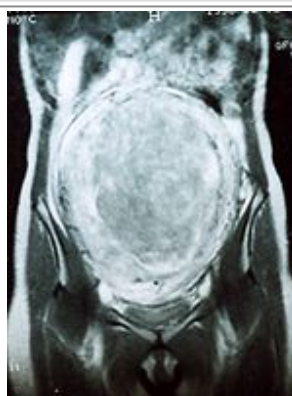
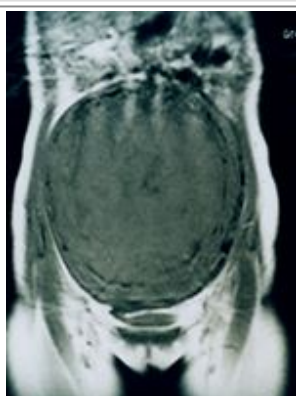
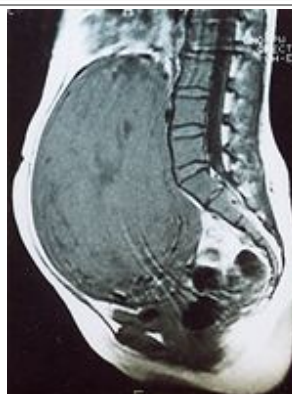
1歳半の愛梨はピングーが大好き。私も夫も日々成長し変化する娘が可愛くてたまりません。あの時、諦めて子宮の摘出手術を受けてしまっていたら、こんな幸せは味わえなかったのですね。筋腫を持ったまま妊娠できても、果たして無事に子供が育ったかどうか分かりませんし、無事生まれたとしてもあの健康状態では満足な子育てができなかったかもしれせん。

斎藤先生の手術を受けた事は、単に子供を授かる可能性を残しただけでなく、子供の成長をしっかり受け止められる“

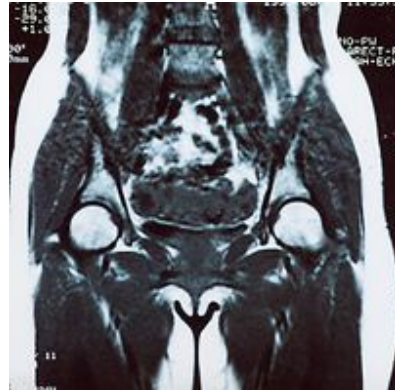
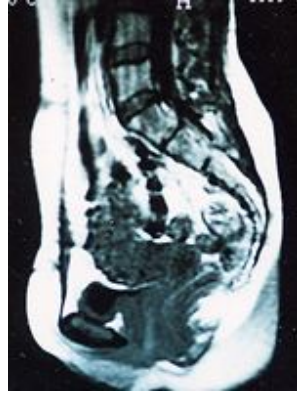
健康”を、私に授けてくれたのですね。 本当に広尾メディカルクリニックと齋藤先生に出会えたことを幸せに思います。



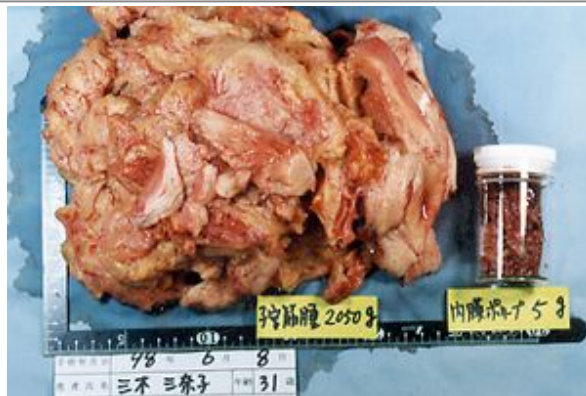
術前(Pre-OP)MRI



術後(Post-OP)MRI



摘出物



	術前(Pre-OP)	術後(Post-OP)
赤血球(RBC)	465	496
血色素(Hb)	9.4	14.9
ヘマトクリット(Ht)	31.2	43.2
CA-125	110u/ml	18u/ml
備考	* 長年にわたる生理過多、腹痛、腰痛 * 術後妊娠、出産	

Copyright(C)2002
HIROO MEDICAL CLINIC